

競技上の注意事項

1 競技要領と競技方法

- ・ 本大会は、公益法人日本障がい者スポーツ協会(JPSA)が主催者であるため、情報などは JPSA のホームページで確認すること。JPSA ホームページ(ホーム「水泳」ジャパンパラ *jsad.or.jp)
- ・ 本大会では、クラス S/SB/SM1~S/SB/SM 14 は世界パラ水泳連盟(WPS)水泳競技規則による。国際クラスに該当しない視覚障がいと肢体不自由の選手のクラスは、クラス S/SB/SM 21 として実施し、WPS 水泳競技規則を準用する。S/SB/SM 15 は国際水泳連盟(FINA)競泳競技規則による。
- ・ WPS 水泳競技規則は、WPS ホームページ(<http://www.paralympic.org/swimming/rules-and-regulations>)に掲載されている。
- ・ 内容の主なものについては日本パラ水泳連盟(JPSF)ホームページ(<http://paraswim.jp/>)に掲載の JPSF 競技運営指針競技規則の項目を参考にされたい。
- ・ 本大会は3日間開催で行い、それぞれの日で午前、午後、夕方の3セッションで行う。夕方のセッションを決勝競技とし、予選・決勝の記録は、東京2020パラリンピック、第24回デフリンピックの選考対象の記録とする。パラリンピック出場対象クラスおよびデフリンピック出場対象の選手は、午前または午後のセッションで行われる予選を泳がなければ、決勝に出場できない。
- ・ 決勝には、予選において上位8位までの選手が出場できる。ただし、予選出場者が8名以下の種目の競技は、予選において決勝進出基準記録を突破した選手のみが、決勝レースに出場できる。決勝進出基準記録が示されていない種目については予選=決勝となり、マイナスワンルールを適用して順位が決められる。
- ・ 決勝進出者は、「決勝進出カード」を各自プールサイドの引き渡し場所で受け取り、決勝セッションで再入場する際にそのカードを提出すること。
- ・ オープン競技(身体19歳以下の50m自由形)は、予選のみとし、決勝レースは行わない。(記録証のみ授与する。)
- ・ 決勝進出は、同記録で予定人員を超えた場合、スイムオフを行う。該当する選手は、その種目結果の公式掲示時間から15分以内に本部に来ること。なお、補欠が同記録で複数いる場合は、抽選を行う。
- ・ 計時のバックアップは半自動計時装置を使用する。
- ・ ゴールタッチはタッチ板の有効面に確実にタッチすること。
- ・ バックプレート、バックストロークレッジ付のスタート台を使用する。調整は各自行い、確実に固定されていることを確かめること。
- ・ 予選は組のみの紹介、決勝は選手紹介を行う。決勝はゲート紹介入場とする。
- ・ 失格による抗議は、公式結果公表(掲示)後30分以内に所定の様式(抗議用紙)で審判長あてに供託金費用10,000円を添えて本部席に申請すること。(失格の理由を聞くことは抗議ではない。)抗議が却下された場合、供託金はJPSAの所有となる。
- ・ 本大会では、上訴審判団は設置しない。

2 スタートリスト

- ・ 予選のスタートリストは、JPSA ホームページにも掲載する。決勝のスタートリストは、予選終了後、速やかに JPSA ホームページに掲載する。
- ・ 予選は、種目ごとにエントリータイム順に原則として女子・男子の順に行う。
- ・ 決勝は、東京2020パラリンピックおよび第24回デフリンピックで実施される種目ごとに原則として女子・男子、クラス順に行う。

3 招集

- ・ 密集を避けるため、招集所への集合時間を競技の15分前以降7分前までの8分間とし、それ以外の選手は、招集所付近も含め、待機を禁止する。招集所へ入ることができる選手は、アクレディテーションカードに記載された該当レースに出場する選手のみが招集所へ入ることができる。また、介助者は招集所に1名のみ入ることができる。なお、棄権の場合は、レース開始予定時刻の1時間前までに所定の用紙(棄権届出用紙)に必要事項を記載の上、競技デスクに届けること。
- ・ 各選手は、招集所でビニール袋を受け取り、プール入場時に持参する。自レーンで脱いだ衣類等をすべてビニール袋に入れカゴにおくこと。

4 デッキアクセス等(競技エリア入場許可申請)

- ・ スタートリストにコードオブエクセプション(以下 CoE とする)「A」、「T」、「Y」の記載がある選手は、必要な介助のために介助者が競技エリア内に入場できる。これらの CoE を持たない選手においては、介助者が競技エリア内に入場するためには、各セッション開始時刻の1時間前までに競技エリア内入場申請をし、認められなければならない。(申請用紙は選手受付で配布、競技デスクへ提出)今大会では、競技役員は介助を行わないので、介助者(タッパーを含める。)は選手側で準備すること。なお、S14 クラスの介助申請や競技エリア入場許可申請は認められない。

5 スタート

- ・ スタートは1回のみとし、やり直しは行わない。他の選手がフォルススタートをおこなった場合でも、出発合図員の号砲でスタートすること。
- ・ 水中スタートをする選手は、審判長の笛の合図で水中に入り、競技規則に沿ったスタート姿勢をとること。なお、プール横から入水する選手は、予選にあつてはレース組の紹介後、決勝にあつてはゲート入場後、自レーンで衣服を脱ぎ、速やかにプール横に移動すること。
(なお、予選では選手紹介は行わないので、レース組数の紹介が終われば、速やかに移動すること。)
- ・ 聴覚障がいの選手のスタート合図は、笛や発声による音声での合図の部分については、出発合図員の動作により表現するので、出発合図員に注目すること。(手話通訳はつかない。)

6 ゴール後は……

- ・ 全選手が泳ぎ終わるまで自分のレーンで待機すること。待機した選手は、全選手が泳ぎ終わった後、審判長の2回のショートホイッスル後、1~4レーンの選手は原則として1レーン側のプールサイドから、5~8レーンの選手は原則として8レーン側のプールサイドから退水すること。

7 視覚障がいの選手は……

- ・ クラス S/SB/SM 11 で CoE「B」の選手は、透けて見えない黒のゴーグルを着用すること。競技終了後、プールサイドで確認する。
- ・ クラス S/SB/SM 11 の選手は、ターンとゴールの際、タッパーが競技者にプールの端に近づいたことをタッピングにより、知らせなければならない。クラス S/SB/SM 12・S/SB/SM 13 の選手にはタッピングの義務はないが、タッピングをしてもかまわない。但し、競技者がプールの端に近づいたことを音声によって知らせることは許されない。競技役員はタッピングを行わないので、タッピング棒ならびにタッパーは各自で用意すること。

8 手話通訳者

- ・ 手話通訳者は、原則として招集所に配置し、必要に応じ各所で通訳を行う。

9 表彰

- ・ 決勝のレース終了後、各クラス 3 位入賞者までにメダルを授与する。ただし、決勝進出者(決勝進出基準記録のない種目は出場者数とする。)が 2 名までの場合は 1 位のみ、3 名の場合は 2 位までメダルを授与する。今回は表彰式を行わないので、レース終了後、該当選手は、各自プールサイドのメダル引き渡し場所において受け取ること。(メダルの郵送は行わないので各自留意すること。)
- ・ 完泳した選手に記録証を授与する。記録証は選手受付で渡すので、参加したセッション終了 1 時間後までに各自取りに来ること。(記録証の郵送は行わないので各自留意すること。)
- ・ オープン競技にはメダルは授与されず、記録証のみ授与する。

10 記録速報の掲示

- ・ 記録速報の掲示は行わない。JPSF のホームページ(「ホーム」⇒「大会リザルト」)に随時アップロードする。

11 受付および練習について

- ・ 選手受付は、3 階ロビーにおいて行う。(1 階ではないので注意すること)
- ・ 3 階入り口で消毒、検温を行い、ロビー内の選手受付で、『体調チェックシート』を提出し、リストバンドを受け取り、手首またはアクレ等の見える部分に装着すること。当日再入場する際は、入館時に消毒、検温を済ませ、選手受付で、アクレとリストバンドを見せること。(セッション中の出入りは、原則として禁止)なお、リストバンドは毎日色が変わるので、翌日以降は、上記の手順で入場し、『その日の体調チェックシート』を提出し、リストバンドを受け取ること。
- ・ メインプール(レーン指定、水深 2.0m)は、それぞれのセッションの競技開始時刻 1 時間 30 分前から 20 分前まで、当該セッション出場者のみが使用できる。

○20 日(前日練習)

A グループ(受付 9:30～、練習 10:00～13:00)、B グループ(受付 13:30～、練習 14:00～17:00)

○21 日(第 1 日目) セッション 1(受付 8:15～、練習 8:30～9:40)、

セッション 2(受付 12:15～、練習 12:30～13:40)、セッション 3(受付 16:15～、練習 16:30～17:40)

○22 日(第 2 日目) セッション 4(受付 8:15～、練習 8:30～9:40)、

セッション 5(受付 12:15～、練習 12:30～13:40)、セッション 6(受付 16:15～、練習 16:30～17:40)

○23 日(第 3 日目) セッション 7(受付 7:15～、練習 7:30～8:40)、

セッション 8(受付 10:45～、練習 11:00～12:10)、セッション 9(受付 14:00～、練習 14:15～15:25)

- ・ 公式スタート練習は行わない。
- ・ サブプールの練習時間は次のとおりとする。

○20 日(前日練習) 10:00～13:00(A グループ)、14:00～17:00(B グループ)、ただし、1 レーンは、クラス観察を行うため、使用できない。

○21 日～23 日は、各セッション 1 時間 30 分前からセッション終了後 15 分まで、原則として当該セッション出場者のみが使用できる。セッション 1, 2, 4, 5 のメインプールアップ開始時間から当該セッション競技開始時間までは各連盟に申し出て許可された選手も使用できる。希望する選手は、事前に各連盟のホームページからエントリーし、練習専用の AD カードの交付を受けること。なお、セッション 9 の使用終了時間は、競技終了時間とする。

- ・ メインプール、サブプールの各レーン使用最大人数は、10名とする。
- ・ メインプールでは、パドル、コード類の使用を禁止する。
- ・ ダイビングプールは使用できない。

12 アンチ・ドーピング

- ・ 本大会ではドーピング検査が実施される。また治療的使用特例(TUE)事前申請大会である。
- ・ 2021年1月1日付けにてアンチ・ドーピングコードが改定になっているので、よく読んで参加すること。
<https://www.playtruejapan.org/>
- ・ 知的障害の選手ならびに大会期間中に18歳未満の選手は、ドーピング検査を含むドーピングコントロールについて親権者の署名した同意書を持参して参加すること。検査対象となった場合、検査機関にその同意書を提出する必要がある。詳しくは <https://www.playtruejapan.org/jada/u18.htm> から確認すること。
同意書は https://www.playtruejapan.org/entry_img/u18_template_20201116.pdf からダウンロードできる。
- ・ ドーピング検査の結果、陽性反応となり違反が認められた場合は、記録は認められず、メダルは返却しなければならない。

13 水着・所属表示等について

- ・ 本大会の水着に関する規程は、原則としてすべてFINA及びWPSの競技規則による。選手はFINA公認の水着を着用すること。水着のチェックは招集所で行う。規定に外れる水着を着用して泳いだ場合の記録はすべて参考記録扱いとなり、決勝への出場はできない。着用できる水着は1枚のみとし、水着の重ね着は禁止する。水着へのテーピングおよび2次加工は禁止する。ただし、障がい上の理由でFINAマークのついていない加工された水着またはFINAマーク剥離の水着を着用する場合は、事前に大会本部に届け出て、許可を受けなければならない。
- ・ 競技エリアで着用するユニホーム等の表示は、介助者、スタッフを含め次のもの以外は認められない。
 - ①自分の氏名、所属の名称やマーク、②国旗・国または地域の名称、都道府県や市町村の名称やマーク、③公式競技会および公認競技会のシンボルマークや主催者が認めたもの、④水着、ウエア等のメーカーロゴ・マーク、⑤事前に届出承認がされている、スポンサーロゴ。それぞれの大きさと数については、【表1】のとおりとする。

【表1】

マークの種類/用途	水着についてよい大きさと数	ウエアについてよい大きさと数	その他のものについてよい大きさと数
自分の氏名、エントリーした所属の名称、マーク、国旗・国または地域の名称やマーク、公式・公認競技会のマークや主催者が認めたもの。	50cm ² 以内で1か所。	大きさ、数に制限なし。	大きさ、数に制限なし。
メーカーのロゴ・マーク	メーカーロゴまたはマークは30cm ² 以内で1か所。	メーカーロゴは40cm ² 以内で1か所。マークは20cm ² 以内であれば数に制限なし。	メーカーロゴは20cm ² 以内で1か所。マークは20cm ² 以内であれば数に制限なし。
事前承認されたスポンサーロゴ	30cm ² 以内で1か所。	40cm ² 以内で1か所。	20cm ² 以内で1か所。

※1 それぞれの大きさ(サイズ)は着用前の面積とする。採寸方法は正方形または長方形とみなし、縦×横で面積を求める。それぞれの面積は最大を示し、その範囲内であれば大きさに規定はない。

※2 ワンピース水着の場合は、ウエストより上に1つ、ウエストより下に1つ許され、ツーピース水着の場合は、上部に1つ、下部に1つが許される。ただし、これらの商標名は相互に隣接しておくことはできない。

14 クラス分け

- ・ 本大会ではクラス分けは実施しない。(JPSF ホームページ掲載部分参照)

15 傷害のある選手

- ・ 傷口が開いている等、テーピングや絆創膏を必要とする傷害のある状態で出場を希望する選手は、事前に招集所に申し出たうえで、JPSF メディカルスタッフの許可及び審判長の承認を得なければならない。許可及び承認を得ないで出場した場合は失格となる。

16 国際登録選手と記録の公認

- ・ IPC のライセンスプログラムに基づき、WPS ライセンス登録をした選手は、WPS へ記録を報告する。

17 新型コロナウイルス感染症(以下「感染症」という。)対策について

- ・ 感染症対策として、各セッション終了後、観客席の入れ替えを行うため、選手および関係者は全員が退館しなければならない。
- ・ 下記の基準の一つでも該当する場合は、入場できない。
 - 参加日に「体調チェックシート」を提出できない場合
 - 「体調チェックシート」において感染症が疑われる場合
 - 参加日前日時点で感染症患者の濃厚接触者として行政から自宅待機を要請されている場合
 - 入場時の検温で37.5度以上の体温がある場合
 - その他、大会への参加が不相当であると主催者(大会感染対策責任者)が判断した場合
- ・ 選手に同行する付添者、家族およびコーチ等は、選手に同伴して入場すること。
- ・ 参加の途中で発熱等感染症を疑う症状が出た場合は、その時点で参加をお断りする。
- ・ 主催者側の措置に従わない場合は、参加をお断りする。
- ・ JPSA の定める「2021 ジャパンパラ水泳競技大会開催における新型コロナウイルス感染症対策指針」(JPSA ホームページに掲載)をよく読んで参加すること。

18 その他

- ・ 本大会では、開始式、閉会式、および表彰式(メダルセレモニー)は行わない。
- ・ 本大会では、トレーナーブースは設置しない。
- ・ 会場における事故等については、応急処置のみとし、その他の責任は負わない。
- ・ 観客席での水分補給以外の飲食は、禁止する。
- ・ 室温は25度～27度位、水温は28度位とする。
- ・ 大会終了後、引き取りがなかった記録証については主催者で処分するので、必ず持ち帰ること。
- ・ 忘れ物については、各日全競技終了後に処分する。
- ・ 感染症拡大の防止のために大会の日程を変更、または中止する可能性があるため、各選手は主催者のホームページ等を随時確認すること。